

2014 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	全学教職課程委員会
評価基準 4	教育内容・方法・成果
中項目 4-3	教育方法
点検・評価項目(1)	4-3-1 教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用
	学生の主体的参加を促す授業方法
点検・評価項目(2)	4-3-2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実 [全学共通の書式によってシラバスを作成している。検証体制は独自に構築されている。]
	授業内容・方法とシラバスとの整合性
点検・評価項目(3)	4-3-3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性
点検・評価項目(4)	4-3-4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施
	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 点検・評価

【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-3-1	主として教育学科が担う「教職科目」と課程認定を受けた各学科の「教科科目」および全学教職課程委員会が担う「教育実習事前指導」「教職実践演習」においては、中高の現場経験のある外部講師を積極的に配置し、模擬授業など導入している。
4-3-2	全学共通の書式によるシラバスが作成され、シラバスも学部学科単位で適切に検証されている。教職に関しては教職課程委員会が検証している。授業内容・方法とシラバスも整合的である。
4-3-3	「教職科目」は教育学科教員が、各学科の「教科科目」は各学科の担当教員が所定の基準に従って厳密に単位認定している。「教育実習事前指導」は「教育実習」の一環として単位認定され、「教職実践演習」は各学科と全学教職課程委員会が連携して厳密に単位認定している。 成績評価については、評価方法・基準が明示されている。
4-3-4	授業改善に関する研修は、全学的なFDが実施されておりそこに委ねている。教職に対する責任体制が分散化しているため、基本は各学科で実施されることに待つ他ない。それを克服すべく「教職課程センター」設立を提言している。

【効果が上がっている事項】

4-3-1	
4-3-2	
4-3-3	
4-3-4	

【改善すべき事項】

4-3-1	
4-3-2	
4-3-3	
4-3-4	

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

--

《指標データ》

データ集（表 9）就職・大学院進学状況

III 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標	目標達成の指標となるもの	評価					
		2014	2015	2016	2017	2018	
中期目標	「教職課程センター」の設立	「教職課程センター」規程案の制定					

諸課程

(2014～ 2018)					
14年度 目標	「教職課程センター」の設立	「教職課程センター」規程案の制定	→		